



代表
石丸
悠太

yuudai - 悠大 -

大分県大分市三佐 3 丁目 10-28 オフィスキヨマツ 102



家族の支えを力に変えて 困難を乗り越え事業を展開



大分県を拠点に足場工事を手掛ける『yuudai』。石丸代表は、どんな困難があっても持ち前の精神力と行動力で乗り越えてきた。そんな代表は、「家族の支えがあって、ここまでこられた」と語る。本日は、タレントの島崎俊郎氏が代表のもとを訪問し、その半生と今後の展望を伺った。

——早速ですが、石丸代表の歩みから。

父が建設会社を営んでおり、私も弟と共に10年近く父の会社で働いていました。しかし、ある時期に会社の経営が傾いてしまって。それで、私や弟の給与が支払われなくなってしまったのです。従業員たちも安い給与で頑張ってくれていました。ところが、父はそんな中でも良い車に乗り、好きな所に出かける日々。父自身、かつて苦勞を重ねて会社を興した人なのですが、成功してから変わってしまっていて……。これでは会社の先が見えないと思い、弟と共に独立することにしました。それを父に告げると、それは物凄く勢いで怒り、「それなら縁を切る」と言われたのです。

——ええ！ それは本気で？

はい。父からしたら私と弟は裏切り者だったのでしょうか。ところが、もともとその会社はいずれ私に譲ると言われていたので、名義は私でした。そのため、経営が傾いたことによる借金を私が負うことに。それで、車や家などを失った状態で、新たにスタートを切ったのです。

——壮絶なスタートですね……。その後お父様とは一切話すことはなかったのですか。

一度だけ、私や弟の子どもが通う保育園の運動会で鉢合わせたことがありました。父のもとに残った私の妹の子どもが同じ保育園だったので、見に来ていたの

でしょうね。父は私や弟の姿を見つけると、運動会の最中だったにもかかわらず掴みかかってきて。もう運動会どころではなく、3人もみくちやで保育園に出ることになりました。

——せつかくの運動会だったのに……。

その出来事がきっかけで、ある意味吹っ切れたというのがあります。いつか見返そうと、この人みたいには絶対にならないぞ、と。だからあくまでも地元を拠点に勝負することにしました。ですが、父の影響は仕事にも及び、この地域でなかなか仕事が取れなくて。そこで、足場工事一本に特化して技術を磨き、どこよりも確かな工事をするので、仕事を取ろうと考えました。大分県の会社から仕事をもらい、北は北海道、南は奄美大島まで、一年中全国を周りながら現場を納める毎日でしたね。

——並大抵の精神力ではそこまでできないでしょう。

父を見返したいという思いが強かったです。でも、それだけではなく、弟や妻の支えが大きかったですね。ここまでついてきてくれた弟、どんなに私の給与が安くても一切私を責めることはなく、「安いなあ」と冗談のように笑ってくれた妻。彼らの存在がどんなに支えになったか——。

——素敵なお家族ですね。周囲の方々に支えられ、現在に至ったと。

ええ。今では、足場工事のほかにも、保温板金工事にも着手しまして。来年に大きい工事が控えているので、今は大手さんの工場に入って技術を勉強させていただいており、いずれそちらで一つの工事班を任せていただける位には技術を身に着きたいですね。その際には、私たちが使う足場を当社の若手に組んでもらい、皆で仕事にあたっていきたいです。

——着実に成長されているご様子です。

まだまだ上を目指していきたいですね。知人で、一から会社を興し、今では大分県で知らない人がいないような会社にも育て上げた方がいらっしやう。自分もそれに続けるように、さらには追い越せるように、今後も企業努力を続けていきます。

(取材 / 2019年6月)

対談を終えて
ゲスト
島崎俊郎



「お子様について石丸代表は、『本能的には自由にさせています。ただ妻には、甘いと言われることもありますね』と笑顔でおっしゃっていました。その様子から、社長がご家族を大切にいらっしやうことが伝わってきましたよ」